教育による景観への意識と効果の研究

小野　千晶[1]・尾崎　晴男[2]

[1]非会員　東洋大学大学院工学研究科環境デザイン専攻　博士前期課程
（〒350-8585埼玉県川越市鯨井2100　E-mail:gd0600061@toyonet.toyo.ac.jp）
[2]正会員　工博　東洋大学工学部環境建設学科
（〒350-8585埼玉県川越市鯨井2100　E-mail: ozaki@eng.toyo.ac.jp）

本研究では，まちづくりに重要な要素となっている景観を学校教育へ取り入れることの可能性に着目し，国土交通省による「関東の富士見百景」を通じて交流を深めている小学校2校の取り組みを調査した．小学校2校の児童，保護者，教職員を対象に，景観への意識分析や，今後の景観教育への適用可能性を見出すことを目的に，アンケート調査を行った．また，児童と保護者の中間の世代である大学生にもアンケート調査を行い，あわせて比較分析を行った．その結果，お互いの学校を訪問する交流活動に高い評価や効果が見られ，保護者も交流活動を重要視していることがわかった．また，景観への関心は専門的に学んでいる大学生が最も高く，学校教育へ専門家の助言等を取り入れることも重要であることがわかった．今後，景観まちづくりへは，地域を巻き込んだ教育が不可欠となってくることを見出した．

キーワード：景観まちづくり，まちづくり学習，意識調査

１．はじめに

近年，高層ビルの乱立や歴史的街並みの減少，美しい風景の破壊など景観に関わる問題が多く取り上げられている．特に地域らしさを活かす上では，視覚的な景観要素が重要であり，まちづくりには景観問題が欠かせなくなっている．その中で，平成17年6月に景観緑三法が施行され，景観への関心が高まってきている状況にある．

今後は，法律や条例を活用した地域での取り組みも必要であると共に，専門家のみならず市民にも地域景観についての意識や知識が求められ，特に将来の景観形成の担い手となる子供達への教育は重要であると考えられる．国土交通省都市・地域整備局では，景観に関心を持ち，良好な景観づくりを自らの問題だと考える人づくりをねらいとした，景観まちづくり学習の推進のための実施モデル校を募集し，平成19年度4月から9月の間にモデルプログラムの検証を実施している．こうした，学校教育にまちづくりを取り入れていくことは，今後さらに積極的に進めていく必要がある．

本研究では，関東甲信地域において重要な景観要素である富士山に着目した．富士見景観として，地域づくりのきっかけづくりを目的とした，平成16年10月と平成17年10月に選定された，国土交通省関東地方整備局による「関東の富士見百景」を取り上げる．「関東の富士見百景」を通じて交流（以下，富士見交流）を深めている小学校2校を対象に，児童と保護者，また先生方等へのアンケートやヒアリング調査から，交流活動と景観への意識と効果を分析し，今後の景観教育への適用可能性を考察することを目的とした．

また，関連研究[1)]である「富士山を例とした眺望景観の形状イメージに関する研究」を発展させ，児童と保護者の中間の世代に当たる大学生へアンケートを実施し，大学生が持つ景観への意識をあわせて比較分析した．

２．先行研究

学校教育へまちづくり学習を取り入れることについて当事者の意識を取り扱った主な研究事例に，三輪らの研究[2)]，田坂らの研究[3)]がある．

三輪らの論文では，住民のまちづくり学習の必要性を考え，地域に隔たりなく存在する教育施設である小学校に注目し，「子どものまちづくり学習」のあり方を考察している．その中で，磐田市の小学校における，まちづくりを取り扱った社会科副読本のあり方について，児童・保護者へのアンケート，教師・行政へのヒアリングを実施している．児童は，副読本での勉強が楽しいと答える一方，野外学習を求める声があり，保護者も，体験学習や野外学習の必要性を強く感じている結果となっている．

田坂らの論文では，2002年度から全面実施された「総合的な学習の時間」での「まちづくり学習」の横浜市での実施状況・内容について把握し，活動事例に対してヒアリング調査を行っている．まちづくり教育実施のねらいとして，ほぼすべての学校において，人との触れ合いや地域への関心の喚起としている結果となっている．また，専門家や地域住民を巻き込んだ活動が成果ある活動へと繋がっているとしている．

これを踏まえ，本研究では，富士見百景選定をきっかけに地域間交流と野外学習を実施し，一部では地域を巻き込んだ取り組みを進めている事例を対象とした．

３．調査対象と方法

本研究では，富士見交流を行っている野田市立みずき小学校と富士河口湖町立大石小学校の両校を対象にヒアリングとアンケートを行った．また，形状イメージの捉え方に関する関連研究[1)]を発展させ，さらに大学生へアンケートを実施した．

(1)富士見交流

交流活動は，野田市立みずき小学校が富士河口湖町立大石小学校へ交流を申し込んだことがきっかけとなり，平成17年2月，両校の児童が作成した富士山の作品を，お互い交換し合ったのを最初に交流活動が始まった．詳しい交流の歴史をまとめたものが**表―1**である．

a)野田市立みずき小学校（以下，みずき小）

千葉県野田市みずきにあり，平成15年4月に開校した新しい学校で，地域の人々に望まれて創られた学校である．そのため、地域に開かれた学校となっており，地域の人々との交流が盛んである．二学期制を採用している．校舎からは，南西方向約120km離れた富士山を，冬季にきれいに眺めることができ，校歌にも富士が歌われている．「関東の富士見百景」へは，平成16年10月の第一次選定でみずきの街として選定された．全校児童463人（平成19年度学校要覧より），そのうち5年生97人，6年生57人である．本研究では，すでに交流活動を経験している6年生を対象にアンケートを行った．また，5年生は平成19年9月20日に交流会を行い，交流後にアンケートを実施するため，発表時にアンケート結果を追加する．

b)富士河口湖町立大石小学校（以下，大石小）

山梨県南都留郡富士河口湖町大石にある，明治6年から続く伝統のある学校である．河口湖の北側，富士山頂から水平距離で約18kmのところに位置しており，校舎からは河口湖越しに富士山を大きく眺めることができる．昭和17年に校歌が制定され，富士が歌われている．「関東の富士見百景」へは，みずき小と同様に第一次選定で，大石小の目の前にある大石公園が選定された．全校児童98人（平成19年度学校要覧より），そのうち4年生19人，5年生18人，6年生18人の小さな学校である．本研究では，すでに交流を経験している5年生と6年生を対象にアンケートを行った．また，みずき小と同様に交流後，4年生へアンケートを実施し，発表時に結果を追加する．

c)野田市役所

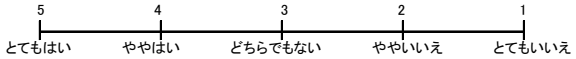
野田市を「関東の富士見百景」へ応募した企画財政部企画調整課と，学校教育部のみずき小開校時の校長先生であった方へ同時にヒアリングを行った．

(2)富士見交流の調査方法

a)交流に関するアンケート

交流活動を経験した児童，地域住民でもある保護者，教育の立場である教職員を対象にアンケート調査を実施した．みずき小学校では，6年生57名とその保護者57名，教職員22名に行った．大石小学校では，6年生18名とその保護者18名，5年生18名とその保護者16名，教職員11名に行った．

アンケート内容は，みずき小と大石小を訪問し，活動内容等のヒアリングを行い，それを元に作成した．両校で活動状況などが違うため，設問内容は維持しながら，文言等を調整した．アンケート形式は五段階回答式と自由回答式を取り入れた．五段階回答式は，概ね**図―1**のような五段階で意識の回答を求めている．以下の分析においては，これらの段階を1～5に数値化して平均値を用いている．アンケート結果を集計し，交流活動への意欲や交流活動を通して景観への意識効果の把握，今後の景観教育への可能性を見出した．



図―1　五段階回答

b)富士見百景や交流に関するヒアリング

交流が行われるきっかけとなった「関東の富士見百景」について，野田市役所へ富士見百景への応募の経緯，選定後の活動や課題，交流活動への考えなどについてヒアリングを行った．富士河口湖町役場へは，平成19年9月20日交流後に行う予定である．

(3)大学生の意識調査方法

平成19年度春学期，東洋大学工学部環境建設学科，専門科目「シビックデザイン」講義受講生である2年生を対象とした．第一回目の講義で描いた富士山のイメージ画を描かせ，属性や景観への意識についてアンケートを出席者135人に実施したものを分析した．

その結果から，大学生の景観への意識を把握し，小学校における富士見交流に関するアンケート結果と比較を

行った.

５．富士見交流

本分析では、未記入が多いものを除いた，みずき小の6年生54人，保護者53人，教職員22人，大石小の5年生18人，保護者17人，6年生18人，保護者18人，教員11人のアンケートを対象とした.

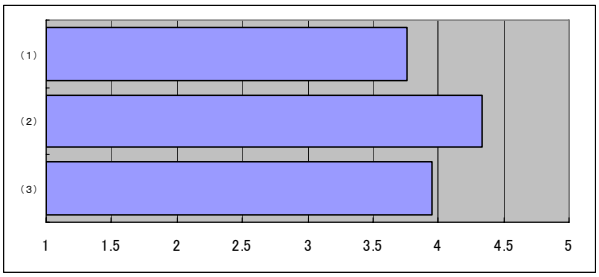
(1)富士山の作品作成・展示

a)児童の評価と児童への効果

富士山の作品作成や展覧会による，児童への影響や効果を知るため，**表―2**の質問をした．また，その結果は**図―2**のとおりである.

表―2　作品作成や展覧会の評価・効果

対象		質問
みずき小	児童	(1)富士山の作品を作ることは楽しかったですか？
	保護者	(2)作品作成や展覧会は，子供達によい効果があると思いますか
	教職員	(3)作品作成や展覧会は，児童へよい効果があると思いますか？



図―2　作品作成や展覧会の評価・効果

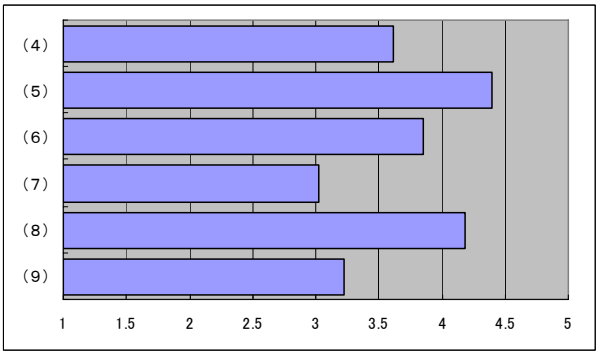
保護者と教職員を比較すると，保護者の方がより効果を期待しており，教職員では効果はややあるに達していない結果となった．教職員は，富士山の作品作成や展覧会の指導をしている立場であり，児童の反応を直に感じた結果が出ていると思われる．これらに対して児童の作品作成等の評価は，やや下回る結果となった.

b)今後の期待

富士山の作品作成や展覧会について，児童，保護者，教職員の今後の期待を知るために，**表―3**の質問をした．また，その結果は**図―3**のとおりである.

表―3　作品作成や展覧会への今後の期待

対象		質問
みずき小	児童	(4)また，展覧会をやりたいですか？
	保護者	(5)今後も，展覧会を続けてほしいですか？
	教職員	(6)今後も，展覧会を続けたいですか？
大石小	児童	(7)展覧会をやりたいですか？
	保護者	(8)今後，展覧会に取り組んでほしいですか？
	教職員	(9)今後，展覧会に取り組みたいですか？



図―3　作品作成や展覧会への今後の期待

全体的にみると，両校とも保護者の期待が大きいことがわかる．また，児童は教職員よりも下回っており，作品作成や展覧会へ意欲的な児童は必ずしも多くない．これは，作品の作成段階での得意不得意が影響していると考えられる.

学校別にみると，大石小の方が期待が低い結果となった．大石小教職員からは，「総合的な学習の時間が減っている」「大石地区で行われる文化祭へ出店する作品造りがある」などの考えがあり，みずき小と比べ富士山の作品作成へ費やす時間等が，困難であることが考えられる.

しかし，大石小ではみずき小児童が作成した作品を展示しており，大石小児童の感想として「ここで見るのとはまた違ってきれいだった」「富士山が好きなんだなぁという思いが伝わってきた」など，自分達が住んでいるところとの違いや，作品から描いた人の想いを感じ取っている児童が見られた．さまざまな人と触れ合い，違いを理解することで，住んでいる地域の良さを知ることもできる．また，人々の想いを感じ取ることで，感性が豊かになる．そのため，今後も作品の交流を続けていくことは大切であると思われる.

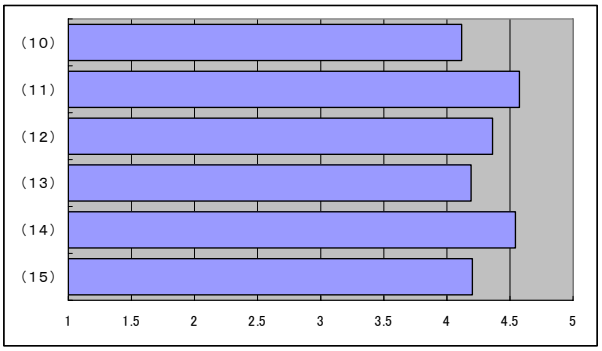
(2)富士見交流

a)児童への影響また効果

富士見百景をきっかけとした両校の訪問による交流について，児童の評価と児童への効果を知るため，**表―4**の質問をした．また，その結果は**図―4**のとおりである.

表―4　富士見交流の評価・効果

対象		質問
みずき小	児童	(10)大石小を訪問して楽しかったですか？
	保護者	(11)交流活動は，子供達によい効果があると思いますか
	教職員	(12)交流活動は，児童へよい効果があると思いますか？
大石小	児童	(13)みずき小との交流は楽しかったですか？
	保護者	(11)交流活動は，子供達によい効果があると思いますか
	教職員	(12)交流活動は，児童へよい効果があると思いますか？



図−4　富士見交流における児童への影響・効果

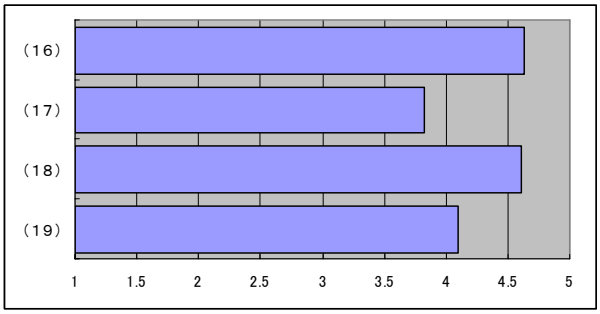
全体的に，児童，保護者，教職員の間で大きな差はなく，訪問による交流活動への影響や効果は充分にあるという結果となった．作品作成や展覧会と比較しても、効果があると考えたり，効果を実感したりしている．児童は交流に対して，「野田市の様子が分かり楽しかった」「近くに見える富士山はきれいだなと思った」「こんな事が出来るんだと思った」などの意見があり，他の地域のことや自分達が住んでいる地域との違いを知ることを，さまざまな人と触れ合い学ぶという体験を通して，実感していることがわかる．

b)今後の期待

富士山の作品作成や展覧会への，保護者と教職員の今後の期待を知るために，**表−5**の質問をした．また，その結果は**図−5**のとおりである．

表−5　富士見交流への今後の期待

対象		質問
みずき小	保護者	(16)今後も，交流活動を続けてほしいですか
	教職員	(17)今後も，交流活動を続けたいですか？
大石小	保護者	(18)今後も，交流活動を続けてほしいですか
	教職員	(19)今後も，交流活動を続けたいですか？



図−5　富士見交流への今後の期待

保護者の期待が大きいことが見てとれる．保護者は，富士見交流に対して「他の学校，他の地域の子供達との交流は新鮮であり良い事」「日本一の富士山を通じて交流できる事は子供にとって大事な事」「他の地域の環境を広く感じて学んでほしい」といった意見があった．視野を広げることや，体でいろいろなことを学ぶといった，普段経験できないことに期待しているようである．一方，教職員は富士見交流に対して「直接交流はなかなか難しいのでは」「学校行事が多い中で無理がある」「お互い負担にならない程度でよい」といった意見があった．効果は実感しているが，距離的に遠い学校であり，両校の予定をあわせることや直接交流を行うことに難しさを感じていることがわかる．

(3)考察

富士山の作品作成や交換展覧会よりも，一歩進んで実際に触れ合い交流する富士見交流の方が，児童への影響や効果があり，今後に期待していることがわかった．特に，保護者からは野外活動である交流活動への期待が大きい．また，児童も作品作成や展覧会と比較すると交流活動の方が楽しいと考えていることがわかった．これは，先行研究として述べた三輪らの研究結果と一致する．一方，継続することに意義を感じている教職員が多いが，時間的や距離的な問題があげられており，両校に負担のないように続けていきたいとしている．交流活動への問題は多くあり今後へ不安もあるが，続けていきたいという考えである．

野田市役所では，「関東の富士見百景」選定後の市内の取り組みとして，みずき小による交流活動以外に代表的なものはなく期待が大きいということだった．また，みずき小児童による展覧会は地元住民に公開されており，地域を巻き込んだ取り組みである．展覧会へは，地域の人々はもちろん，富士山を撮影しているプロの写真家が市外から訪れるなどしており，富士見景観へ強い想いをもった人々との触れ合いによって，児童へ景観意識が生まれるきっかけとなるのではないかと考える．

みずき小で毎年行われている展覧会は，開校年から続けられており，平成20年の次回で5周年を迎える．今後も大石小との作品交流や，作品展示公開により地域との関わりを持つことのできる展覧会を継続する価値は充分にあると思われる．

6．富士見景観と景観まちづくり学習

次に，両地域における重要な景観資源である富士山の景観に関する意識と，景観まちづくり教育に関する意識について，大学生への質問もあわせて結果をまとめる．

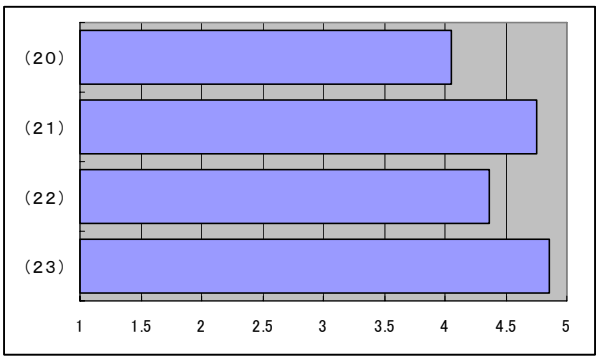
(1)富士見景観について

a)富士見景観への意識

富士見景観への意識を知るため，それぞれの地域から見える富士山について **表−6**のように質問をした．また，その結果は**図−6**のとおりである．

表－6　富士見景観への意識

対象		質問
みずき小	児童	(20)みずき小から見える富士山は好きですか？
	保護者	(21)みずきから見える富士山は好きですか？
大石小	児童	(22)大石小から見える富士山は好きですか？
	保護者	(23)大石から見える富士山は好きですか？



図－6　富士見景観への意識

児童よりも保護者の方が，住んでいる地域からの富士山を「とても好き」とする回答が多い結果となった．保護者は，その地域に子供の頃から住んでいたり，長い間住んでいたりと地域やその周辺環境へ想いが強いと考えられる．児童については，大石小の方が少し高い値である．みずき小からは，富士山が一年のうちほとんどが空気の澄んだ冬季に見えるため，一年中見ることができる大石小よりも印象が薄いのではないかと思われる．

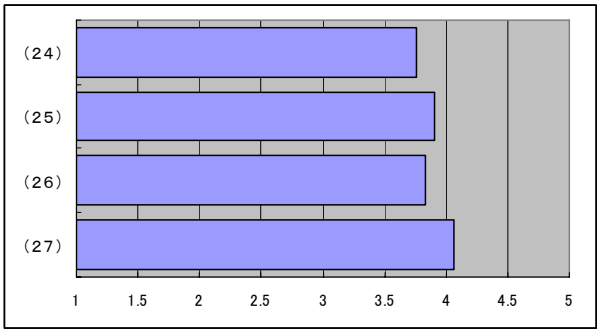
保護者からは富士見景観に対して，「遠く離れた街からもきれいに見える富士山はとても感動的で，残していきたい」「関東の富士見百景に選ばれたことを誇りに思う」との意見がみられ，住んでいる地域からの富士見景観の大切さや，親しみの深さがわかる．しかし一方では，「富士山そのものをきれいにした方がいい」といった，富士山自体のごみ問題などを指摘する意見があった．富士見景観を優先した開発によって，周辺環境の悪化や富士山自体の環境悪化を招いている現状もある．富士見景観を強調することによる高層ビルの乱立や，観光客による環境悪化は，大きな課題となっている．

b)地域への愛着

それぞれの地域への愛着がどれほどあるのかを知るため，表－7のように質問をした．また，その結果は図－7のとおりである．

表－7　地域への愛着

対象		質問
みずき小	児童	(24)これからも，みずきに住み続けたいですか
	保護者	(25)これからも，みずきに住み続けたいですか
大石小	児童	(26)これからも，大石に住み続けたいですか？
	保護者	(27)これからも，大石に住み続けたいですか？



図－7　地域への愛着

それぞれの地域にこれからも住み続けたいかは，それぞれの地域から見える富士山が好きかに比べると，すべての対象において低い値となった．これは生活するにあたって，景観だけでなく周辺の環境などさまざまな居住環境が関わってくるためであると考えられる．

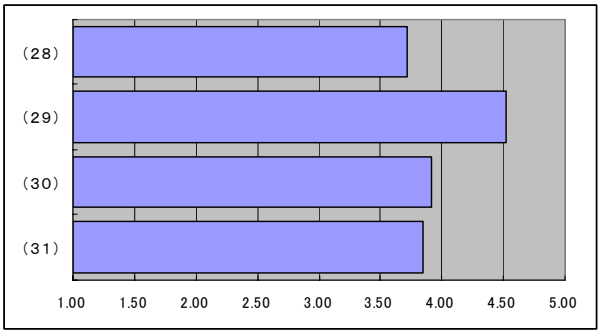
その中でも，保護者からは「毎日違って見える富士山を見ていると，この地がふるさとになりつつなると感じる」といった意見もあり，関東の富士見百景へ選定されたことで，より地域への愛着が生まれている可能性を示している．

(2)景観への関心

景観への関心を知るため，大学生を含めてほぼ同等の内容で表－8のように質問をした．その結果は図－8のとおりである．

表－8　景観への関心

対象	質問
児童	(28)富士山が見えなくなってしまったら悲しいですか？
大学生	(29)景観は重要だと思いますか？
保護者	(30)景観問題に関心がありますか？
教職員	(31)景観問題に関心がありますか？



図－8　景観への関心

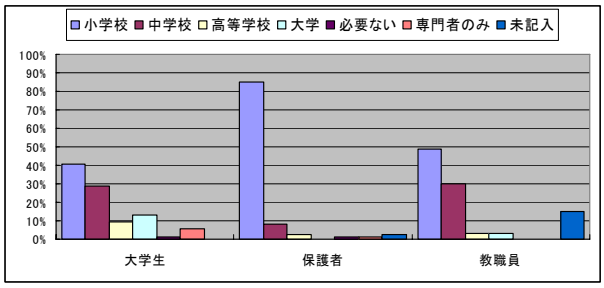
大学生がより景観へ関心があることがわかる．東洋大学工学部環境建設学科では，都市計画や周辺の環境に関することなども学んでおり，すでに関心を持っていることやより専門的に学び，問題意識があるためである．

その他の児童，保護者，教職員は差があまりなくやや

関心があるとなった．教職員は周りの景観に対して，「林が削られ住宅地となった」「観光重視の開発」など，景観の悪化を答えている人が多くいた．一方で，「荒地が整備された」「自然との調和のための規制ができた」などの意見もあり，周りの景観に対する意識が高いことがうかがえる．そのため，小学校の周辺環境を学ぶことができる，まちあるきなどを実施し児童と地域の変化や新たな発見をすることによって，児童の景観や地域に対する意識を高めることができる．

(3)景観まちづくり学習

現在，まちづくりを授業に取り入れるなどの事例が増えている．そんな中で，大学生，保護者，教職員へ「景観まちづくりなどの学習をいつ頃から始めればよいと思いますか？」という質問をした．選択肢は，小学校，中学校，高等学校，大学，学ぶ必要はない，専門とする人のみ，の6項目とした．その結果を構成率で示したものが**図―9**である．



図―9　景観まちづくり学習を始める時期

三者とも，小学校と回答している人が最も多い結果となった．保護者に関しては，80%を超えている．保護者の中には「素直な小学校のときから富士山が美しくながめられることの素晴らしさを伝えたり，他県の小学校と交流をもったりすることはよいこと」という意見があり，現在、小学生の子供を持つ親であるため，学校教育への期待が大きいと考える．また，教職員も小学校と回答した人が50%近く，次いで中学校が多い．現教職員も，初等教育での学習を重要と考えている．

一方大学生は，小学校や中学校と回答している人が多いが，高等学校や大学，専門とする人のみと回答した人も見られた．今の大学生が小学校や中学校の頃には，まだまちづくりなどを授業へ取り入れる事例が少なかったことや，より専門的に学んでいるため，若年時の学習において難しさなどを考えた結果であると考えられる．

(4)考察

それぞれの地域から見える富士見景観へは親しみを持っているが，景観一般への関心はあまり高くない結果となった．大規模な景観破壊で住民運動などが起こらない限り，地域住民が景観の重要性を意識することは少ないと考えられる．保護者や教職員の景観問題への関心はさほど高くないが，問題意識は持っている．田坂らが指摘したように，専門家による指導や地域住民を巻き込んだ地域学習などが重要と思われる．

野田市では，富士山の眺望は他地域越しにあるため，富士見景観を守る対策は特になく，阻害物が建った事例もあるという．また，すべての眺望を保護するのは困難でもあり，現在は地域づくりに力を入れていきたい考えであった．両校の保護者から「もっと市報で広めていくべき」「アピールしないと町全体に伝わらないのでは」といった意見もあり，まずは，市や町の財産である富士見景観を広く知らせていくことが重要である．そこから，人々の景観への意識が高まることも期待できる．

7．おわりに

富士見交流のような，富士山を通じて交流を行うことで，富士山を重要な財産と考え，富士見景観への意識へと繋がっていくことが期待できる．また，小学生の関心を高めるには，景観まちづくり学習の「モデルプログラム」等によって身近な体験学習を積み重ねていくことも有効であろう．景観まちづくりは，その地域住民が主体となるものである．今後は，教育にも地域を巻き込んだ取り組みが不可欠と考え，行政や専門家の助言があることで，より深みを増すものと考える．

謝辞：本研究の調査やアンケート実施にあたっては，野田市立みずき小学校と富士河口湖町立大石小学校の関係者の皆様，また，野田市役所企画調整課と学校教育部育部の関係者の方にご協力いただきました．厚く謝意を表します．

参考文献

1)小野千晶，尾崎晴男：富士山を例とした形状イメージの捉え方に関する研究，土木計画学研究・講演集 34，(CD-ROM)，2006.
2)三輪千夏，Sangdok YOUN，中川義英：小学校におけるまちづくり学習のあり方，土木計画学研究・論文集16，61-68，1999.
3)田坂亮，和多治，高見沢実：小学校の総合的な学習の時間に組み込まれた「まちづくり教育」に関する研究，都市計画論文集38-3，277-282，2003.

表−1　みずき小と大石小の交流活動の歴史

年	月	日	分類	場所	対象学年 みずき小（現学年）	対象学年 大石小（現学年）	内容
15	4	1	みずき小開校				
16	2	9〜14	第一回 みずき小展覧会	みずき小	全校児童（5,6年生）		「富嶽383景」 みずき小全校児童の作成した作品が展示・公開される。
	10		富士見百景選定				野田市「みずきの街」，富士河口湖町「大石公園」が選定される.
	12	12,13	大石小視察		教員2名		林間学校や大石小との交流へ向けた視察を行う.
17	1	24〜31	第二回 みずき小展覧会	みずき小	全校児童(4,5,6年生）		「富嶽406景」 みずき小全校児童の作成した作品が展示・公開される.
			第一回 作品交流	みずき小		5,6年生	大石小児童の作品が，みずき小校内へ展示される.
				大石小	全校児童(4,5,6年生）		みずき小児童の作品が，多目的ホールへ展示される.
	10	11	第一回 直接交流	大石小	4,5,6年生有志20名 (6年生）	4,5,6年生 (6年生）	みずき小が秋休みを利用し，大石小を訪問. 校歌の発表や，給食を食べた.
18	1	23〜28	第三回 みずき小展覧会	みずき小	全校児童(3,4,5,6年生)		「富士山430景展」 みずき小全校児童の作成した作品が展示・公開される。
			第二回 作品交流	みずき小		5,6年生	大石小児童の作品が，みずき小校内へ展示される.
				大石小	全校児童(3,4,5,6年生)		みずき小児童の作品が，校内へ展示される. 現在も玄関へ展示されている.
	5	下旬	大石小登山	大石小		5,6年生(6年生)	富士山登山を行う. 5合目から下山.
	9	21	第二回 直接交流	大石小	5年生(6年生)	4,5,6年生(5,6年生)	みずき小が林間学校を兼ねて，大石小訪問. お互い出し物をし、交流を深める.
		22					みずき小が林間学校で富士山登山.
19	1	下旬	第四回 みずき小展覧会	みずき小	全校児童(2,3,4,5,6年生）		「富士山447人展」 みずき小全校児童の作成した作品が展示・公開される。
	9	20	第三回 直接交流 （予定）	大石小	(5年生)	(4,5,6年生)	みずき小が林間学校を兼ねて，大石小訪問予定.
		21					みずき小が林間学校で富士山登山予定.
20	1	11	第四回 直接交流 (予定)	みずき小	(5年生)	(5年生)	大石小が冬休みを利用し，みずき小を訪問予定.